

5 古墳が語るヤマトの王と地方の王

～前期から中期、中期から後期～

1 ヤマト政権と前方後円墳

静岡県内には、有力な河川の河岸段丘^{かがんだんきゅう}面や台地の先端部、尾根上などに多数の古墳が残されている。共通して平野を見下ろす場所に造られており、それぞれの平野で、水田を営む集団を治



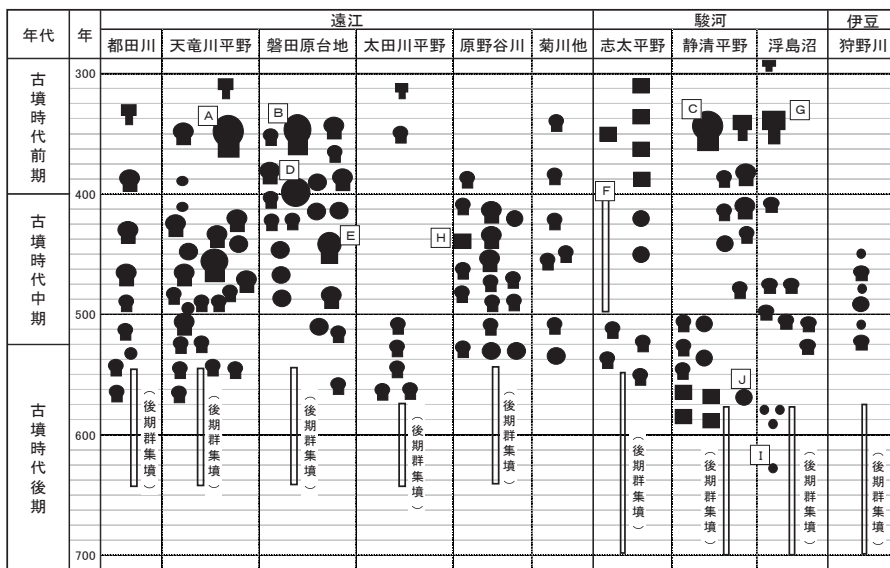
〈写真1〉谷津山古墳

める権力者が、その地位を誇示するために造ったものと考えられる。

天竜川の沖積平野を見下ろす磐田原台地西端にある磐田市^{ちようしづか} 銚子塚古墳 (A)、磐田・袋井の平野を見下ろす磐田原台地南端にある松林山古墳 (B)、静岡平野の真ん中から周囲を見下ろす山頂にある谷津山古墳 (C) (写真1) は、それぞれの地域のなかで最初

に造られた前方後円墳である (図1)。これらは皆、前期 (4世紀) 中頃のほぼ同じ時期に立地の良いところに造られ、全長約110mと

〈図1〉県内の古墳分布 (概略)



『静岡県の前方後円墳 - 総括編 -』 218頁・219頁より作成

いう地域のなかで抜きん出た規模も揃っている。ヤマト政権は次第に地方を支配下に組み込み、中期 (5世紀) までには全国に及んだと考えられている。この過程で本来「大王」の墓である前方後円墳が地方の「王」たちにも採用され、政権に組み込まれ地方を任された証に一定規格に揃った前方後円墳の造営が

許されたのではないだろうか。これ以降、後期 (6世紀) の前半まで、県内各地域の主要古墳の形は前方後円墳が大勢を占めるが、規模は大きくても全長30m以下と確実に小さくなっていく。

しかし、県内で最も古墳が集中する磐田原台地上では、直径約80mの兜塚古墳 (D) など他地域にはない大型の円墳 (東海地方最大) が造られたり、中期になってから再び全長約110mを越える前方後円墳堂山古墳 (E) が造られるなど特殊な状況を示す。地方とヤマト政権との関係が必ずしも単純な上下関係だったわけではなく、ある程度の独自性の発揮あるいは自己主張と規制の応酬^{おうしゅう}のようなものがあつたのであろうか。大井川東岸の志太平野では、前期から中期にかけて前方後円墳は造られず、まず小型の方墳が、次に藤枝市若王子古墳群 (F) のような群集墳

が造られるという特徴がある。ここからは、地方の権力者のなかにも、直接ヤマト政権に組み込

まれ古墳の形を変えた「王」の一方で、政権と直接関係を持たず独自性を保持し続けた者がいたことが考えられる。

ところで、県内で最初に造られる古墳は前方後円墳ではない。先に紹介した前期中頃の前方後円墳と同じ時期か、あるいは少し前に前方後方墳ぜんぽうこうほうふんが造られている地域がある。富士・富士宮地域では、全長103mという大型の前方後方墳である浅間古墳せんげん〔G〕が最初に造られている。さらに、これに先行して弥生時代の系統をひく大型の前方後方形墳ぜんぽうこうほうふん丘墓かみが造られている。前方後円墳造営を許される以前、県内の権力者たちは弥生時代の方形周溝墓ほうけいしゅうこうぼや墳丘墓の系統を引く方墳や前方後方墳に埋葬されていたのではないだろうか。

2 地方の「王」と武具・馬具

袋井市五ヶ山B 2号墳ごかやま〔H〕は一辺約30mの中期の方墳で、立派な鉄製の甲冑かっちゅう〈写真2〉や刀剣が副葬されていた。他にも森町林2号墳もりまちはやし、文殊堂11号墳など、中期から甲冑を副葬するものが目立つようになる。銅鏡などの副葬が中心であった前期の古墳とは違った状況である。袋井や森は、有力な古墳が集中する磐田原台地の周辺で、前期から大規模な古墳は造られていない。5世紀以降には地方の「王」に従う軍隊が存在し、甲冑を伴う古墳には、その長が埋葬されたのであろうか。また、これらの甲冑のつくりは全国でほぼ均質であり、大変高度な製作技術を要することから、ヤマト政権から地方に配分されたものと考えられる。前期中頃以降の前方後円墳の普及とともに全国的政権確立を示すものであろう。

長泉町原分古墳はらぶん〔I〕は、直径約16mの後期の円墳で、奥行7.6mの長大な横穴式石室よこあなしきせきしつのなかに豪華な金銅製馬具こんどうせいばぐが副葬されていた。こうした装飾馬具は他にも静岡市賤機山古墳しずはたやま〔J〕〈写真3〉など、いくつかの古墳でも副葬されており、全国的にみても静岡県は出土例が豊富である。さらに、原分古墳では装飾を施した大刀たちも副葬されているが、柄頭つかがしらと鐔つばに銀象嵌ぎやうがんで大変精緻な模様〈写真4〉が残されており、当時としては最高の技術であったと考えられる。きらびやかに飾った馬に乗り、大刀を身につけていた人物とはいかなる存在だったのであろうか。前述したように、古墳の規模は中期から後期にかけて全体に小さくなっていき、前期のように外見上で他を圧倒するものは見つけにくい。古墳自体の数も後期になると群集墳ぐんしゅうふんや横穴群の造営で爆発的に増え、古墳を造ることができる階層すそのの裾野は広がったようである。しかし、古墳内部の横穴式石室の規模や副葬品の豪華さで他を凌駕りやうがし、地方の「王」の墓だと考えられるものがある。

〈参考文献〉

『静岡県史』通史編1 原始・古代、別編3 図説静岡県史
静岡県教育委員会『静岡県の前方後円墳』
静岡県埋蔵文化財調査研究所『遺跡調査報告会資料』（2006）、『原分古墳』



〈写真2〉鉄製の甲冑（五ヶ山B 2号墳）



〈写真3〉装飾馬具（賤機山古墳）



〈写真4〉大刀の模様（原分古墳）